

平成 27 年 2 月定例会 千葉県議会予算委員会会議録

平成 27 年 3 月 4 日（火） 午前 10 時 30 分開会

<齊藤守議員のみ抜粋>

○委員長（石橋清孝君） 次に、齊藤委員。

○齊藤 守委員 まず、コンビニ防犯ボックスについてお伺いをしたいと思います。この件については、私の質問は、昨年 2 月定例会県議会の一般質問に続いて 2 回目となります。また、本会議における我が党の代表質問でも取り上げられました。本日は別の観点からお聞きしたいと思っております。

防犯ボックスは、防犯ボランティアのボランティア活動の活性化や犯罪の減少などの効果が認められたということから、事業拡大することも決まり、27 年度は私の地元であります船橋市と、そして柏市にそれぞれ 1 カ所設置すると聞いております。

そこでお伺いします。この防犯ボックス関連予算として 3,850 万円が計上されていますが、そのうち新規設置予定の船橋市、柏市分はどのくらいの金額になるのか。その内訳はどのようなのかお聞かせください。

○委員長（石橋清孝君） 関係課長。

○説明者（野溝生活安全課長） 生活安全課長の野溝です。

防犯ボックス関連予算 3,850 万円のうち、船橋市、柏市の新設 2 カ所分の経費は 1,826 万円です。このうち主な内訳は、セーフティアドバイザーにかかわる経費が約 900 万円、ボックスの設置費用が約 600 万円となっています。

○委員長（石橋清孝君） 齊藤委員。

○齊藤 守委員 ボックスの設置費用が 2 カ所で 600 万円ということは、1 カ所 300 万円というふうなことだろうと思います。それから、セーフティアドバイザーの経費が 900 万円っていうことは、これは何カ月分というふうに理解したらよろしいんでしょう。

○委員長（石橋清孝君） 関係課長。

○説明者（野溝生活安全課長） 2 カ所ともおおむね半年分を予定しております。

○委員長（石橋清孝君） 齊藤委員。

○齊藤 守委員 まとめますと、1カ所当たりボックス設置が初年度のみ300万円、そして年間人件費等が1カ所年間900万円ということで理解いたしました。防犯については、自助、共助、公助で進めていかなければならないと考えます。自助は個人個人が戸締りをきちんとするとか、あるいは交通事故に遭わないように気をつけて行動するとかというわけになるわけですが、自分だけでは防げない近所、地域が共同して行うのが共助であります。船橋の防犯ボランティアの皆さんは、各地域ごとに大変熱心に取り組んでおられます。私はこの防犯ボックスが設置された際には、これが防犯活動の拠点としてパトロール活動がさらに活発化し、犯罪が減少するものと期待しておりますが、そこでお伺いします。今後の新規設置に向けたスケジュールはどのようになっているのでしょうか。

○委員長（石橋清孝君） 関係課長。

○説明者（野溝生活安全課長） 現在、県や警察、関係市などで構成するプロジェクトチームにおいて、候補地について検討しているところでございます。今後、候補地が決定された際には、地権者への折衝を行うとともに、地元住民説明会の開催などを経て、設置工事に着手することとなります。いずれにしましても、できるだけ早期に開設し、運用できるように努めてまいります。

○委員長（石橋清孝君） 齊藤委員。

○齊藤 守委員 了解しました。早期に開設してください。私は、船橋市にとって、この1カ所が成功すれば、10カ所以上、あるいは何十カ所といった要望が出てくるのではないかと思います。そのことによって市内の犯罪が少なくなるのであれば、1カ所設置費用が300万、人件費は年間900万という安価でできるのですから、ぜひ広げていただきたいというふうに思います。

しかし、防犯ボックスだけで地域の安全にとって十分というわけにはまいりません。防犯についての公助の部分が必要になってまいります。公助は、やはり警察の力であります。地域にとっては交番や駐在所などの存在は大きな安心のもとであり、また、防犯効果は大きいものだと考える次第です。

そこで質問は、交番、駐在所の設置要望はどのくらいあるのでしょうか。

○委員長（石橋清孝君） 関係課長。

○説明者（田中地域部参事官兼地域課長） 地域課長の田中でございます。

市町村や地域住民から交番等の設置要望があった地域につきましては、新設や移転建てかえ等により対応してるところであります。平成元年以降の要望のうち、115 地域については交番等の設置には至っておりません。

○委員長（石橋清孝君） 齊藤委員。

○齊藤 守委員 115 カ所の要望が実現できてないということですが、ところで、交番を1カ所設置するための費用はどのくらいかかるんでしょうかお伺いします。

○委員長（石橋清孝君） 関係課長。

○説明者（田中地域部参事官兼地域課長） 交番の設置費用につきましては、土地代を除きまして、1カ所当たり約3,000万円になります。

○委員長（石橋清孝君） 齊藤委員。

○齊藤 守委員 それでは、交番1カ所を維持するための年間の費用はどのくらいかかるんでしょうか。

○委員長（石橋清孝君） 関係課長。

○説明者（田中地域部参事官兼地域課長） 交番用地の土地代につきましては、さまざまな形態があるため、一概にはお答えすることはできません。なお、土地代を除いた交番を維持するための年間費用につきましては、主として人件費でありまして、警察官6人及び交番相談員2名の人件費、光熱費の総額は約6,000万円ほどになります。

○委員長（石橋清孝君） 齊藤委員。

○齊藤 守委員 わかりました。それでは、今審議されている予算の中で、平成27年度の当初予算では、交番を何カ所設置する予定かお伺いしたいと思います。

○委員長（石橋清孝君） 関係課長。

○説明者（田中地域部参事官兼地域課長） 平成27年度予算での交番の設置予定はございません。

○委員長（石橋清孝君） 齊藤委員。

○齊藤 守委員 そうですか。115カ所も要望がありながら1カ所もつukれないということについては非常に残念に思う次第です。

ところで、交番の新設に当たっては、人的な問題もあると聞いておりますけれども、どのようなものかお伺いいたします。

○委員長（石橋清孝君） 関係課長。

○説明者（田中地域部参事官兼地域課長） 交番は警察官が24時間で勤務をしております。原則として1当務2人以上の警察官が3交代制勤務を運用しており、最低でも6名の警察官を確保することが必要であることから、人的な問題もあると考えております。

○委員長（石橋清孝君） 齊藤委員。

○齊藤 守委員 私ども船橋では、警察官は余っているんじゃないかというふうな、交番をつくるために、その警察官を使ったらいいんじゃないかというふうな、市民からよく我々に聞かれることであります。例えば前総理が夏の盆踊りのときなど、何カ所も回るわけなんですけれども、数日前に主催者側と会場での打ち合わせがあつて、どこで車をおり、どういう流れで、どういうところに人を入れないようにとか、細々とした打ち合わせがあり、そして、当日は何カ所かの会場全てに事前に警護の警察官が何人かずつ配備されて、その会場を次々と3台の黒塗りの車で回って歩くんですけど、そして、マイクで挨拶をされた後、前総理は打ち合わせにない行動をとられるんでしょう。観客の中に入って行って、そうすると観客は群衆のようになってキャーキャー、ワーワーというふうになるわけです。それで、警護の方たちは群衆と前総理の間に入って分けようとするものですから、余計混乱が生じてくるわけなんですけれども、そして、警護の警察官が手を広げてつくられた空間で、今度は前総理と市民の方たちの写真撮影会が繰り広げられるというふうなことで、主催者側からは、いつまであんなに警護がつくのとか、交番でもつくってくれたらありがたいのになつていうふうに聞かれる次第です。県警に確認したところ、何人ついているか、いつまでつくのかについては答えられないというふうなことですし、また、警護と交番設置は別の問題であるというふうなことで、一応そのことについては了解する次第ですけれども、市民の目からは、市民の安全を守る交番設置が進まないのに、大勢の警察官を1人の人が盆踊りに行くのに使うなんて、よほど偉いんですねというふうに言われる次第です。

失礼しました。話が横にそれましたけれども、質問は、115件の交番設置要望がある中で、今後どのように取り組んでいくおつもりでしょうか、お伺いします。

○委員長（石橋清孝君） 関係課長。

○説明者（田中地域部参事官兼地域課長） 交番の新設につきましては、事件、事故の発生件数、管内の人口、世帯数などの地域情勢を総合的に勘案いたしまして、その必要性を精査しており、今後も県民の要望に応えるため、関係部局と協議を進めてまいりたいと考えております。

○委員長（石橋清孝君） 斉藤委員。

○斉藤 守委員 多発するオレオレ詐欺など特殊詐欺を未然に防ぐためにも、身近な交番と、それからお巡りさんの存在は大きな効果があるものと思います。交番設置に向け、予算及び人員の拡充に努めるよう強く要望いたします。また、共助である防犯ボックスの設置が交番不足を補うものではないということを申し添えておきたいと思います。

次に、津田沼駅周辺の交通渋滞の問題についてお聞きます。

ここは日常的に道路が渋滞しておりまして、私の女房なども車で買い物には津田沼には行かないと言っております。20分で行ける距離が1時間もかかるからなんです。また、幹線道路が渋滞しておりますので、抜け道として生活道路や狭い通学路に多くの車が入り込み、大変危険な状態が続いております。その大きな原因の1つが、国道296号線成田街道と、それから県道長沼船橋線にある新京成線の踏切です。この2つの踏切を含めて、この近辺には8カ所の踏切があります。新津田沼駅から数百メートルのところにあるこれらの踏切は、電車もゆっくり走りますし、朝晩は電車の数も、例えば朝7時台は上下線合わせると20本も走っているという状況です。また、この時間は通勤する自動車も大変多く、なかなか踏切を通り過ぎることができない状態であります。

そこで質問は、津田沼駅周辺の国道296号線や県道長沼船橋線の渋滞緩和を図るために、新京成線の立体化が必要だと思うが、どのようにお考えになられるでしょうか。

○委員長（石橋清孝君） 関係課長。

○説明者（神作道路整備課長） 道路整備課長の神作でございます。

津田沼駅周辺の新京成線の立体化につきましては、まず、まちづくりの観点から、船橋市、習志野市において検討する必要があると考えます。県としましては、両市からの相談に対しまして助言するなど、適切に対応してまいります。

○委員長（石橋清孝君） 斉藤委員。

○斉藤 守委員 ありがとうございます。要は、船橋市、習志野市がまちづくりの中にど

のように位置づけるかということだと理解しました。

ところで、この事業を行う場合は、事業主体はどこということになるのでしょうか。

○委員長（石橋清孝君） 関係課長。

○説明者（神作道路整備課長） 鉄道の連続立体交差事業につきましては、国において要綱が定められており、事業主体は都道府県、政令指定都市、県庁所在都市、または人口 20 万人以上の都市及び特別区となっております。

○委員長（石橋清孝君） 齊藤委員。

○齊藤 守委員 今の話からは、船橋市が事業主体になることもできるようでありますけれども、新京成線の路線が船橋市、習志野市にまたがっていることを考えますと、県が事業主体になることが適当なんだろうなというふうに思うわけです。

そこでお伺いします。県が現在実施している連続立体交差事業の費用負担はどのようになっているのでしょうか。

○委員長（石橋清孝君） 関係課長。

○説明者（神作道路整備課長） 現在、県が進めております連続立体交差事業における費用負担割合については、鉄道事業者が全体事業費の約 1 割、残る事業費に対して国費が 2 分の 1、残る 2 分の 1 に対しまして県が約 3 分の 2、地元市が約 3 分の 1 となっております。

○委員長（石橋清孝君） 齊藤委員。

○齊藤 守委員 ありがとうございます。地元商店街の皆さんからは個別に相談を受けるわけなんですけれども、まだ全体の声になっていないというのが現状だろうというふうに思います。御答弁をいただいた内容を参考にさせていただきながら、地元、または市と話し合っていきたいと思います。私のライフワークの 1 つにしていきたいというふうに考えます。

最後に、私のもう 1 つのライフワークでもあります船橋我孫子線の問題についてお伺いいたします。

9 月議会でお聞きした東船橋駅入り口交差点の右折レーンの設置と右折の矢印信号の問題ですけれども、当時の答弁で、安全対策の検討を行うということでしたけれども、その後、状況はどのようでしょうか。

○委員長（石橋清孝君） 永田県土整備部長。

○説明者（永田県土整備部長） 県道船橋我孫子線の東船橋駅入り口交差点につきましては、平成 25 年度に交通量や渋滞長などの調査を実施したところです。この調査をもとに、今年度、検討を進めた結果、当該交差点の上り方向から東船橋駅方面への右折時の安全対策が必要であると判断をいたしました。今後、当該交差点の上り方向に新たに右折車線を設置し、安全性の向上を図ってまいります。

○委員長（石橋清孝君） 斉藤委員。

○斉藤 守委員 ありがとうございます。右折レーンをつくるという方向で考えていただいているということでございます。

ところで、今のお答えを受けまして、東船橋駅入り口のその交差点、平成 27 年度の事業予定としてはどのようになっているのでしょうか。

○委員長（石橋清孝君） 永田県土整備部長。

○説明者（永田県土整備部長） 27 年度は上り方向の右折車線設置に向けまして、交差点詳細設計を実施するとともに、関係機関と協議を進めていくこととしております。

以上でございます。

○委員長（石橋清孝君） 斉藤委員。

○斉藤 守委員 ありがとうございます。着々と進んでいくというふう感じております。一日も早く、できれば 28 年度には工事が完成することをお願いいたしまして、私、斉藤守の質問を終わりとさせていただきます。ありがとうございました。（拍手）